私は金正日の極私警護官だった

仮面に隠された戦慄、驚愕の素顔

著☆李英國（イ・ヨングッ）
監訳☆李京榮

私は金正日の極私警護官だった
仮面に隠された戦慄、驚愕の素顔

2003年1月15日　初版第1刷発行

著　者　李（イ）　英國（ヨングッ）

監　訳　李（イ）　京榮（キョンヨン）

発行者　木谷仁哉

発行所　株式会社ブックマン社
〒101-0065
東京都千代田区西神田3-3-5
TEL.03(3237)7777
http://www.bookman.co.jp/

印刷・製本：凸版印刷株式会社

© 2003 I YONG Printed in Japan ISBN 4-89308-525-5 C0036
許可なく複製・転載すること及び部分的にもコピーすることを禁じます。
落丁・乱丁本はお取り替え致します。

私は金正日の極私警護官だった

――仮面に隠された戦慄、驚愕の素顔――

推薦文

北朝鮮は徹底的な首領様独裁の国だ。

金正日（キムジョンイル）は党と国家の政策は言うまでもなく、住民たちの日常生活と風習、言語に至るまで干渉し統制する。

北朝鮮は文字どおり首領の家父長的な独裁が支配する国だ。これに対して民主主義的社会生活に慣れた人々は、これを理解することができなくて北朝鮮の残酷な現実を信じようとしない。

著者は金正日の警護官として11年の間、彼の安全な生活を保障するために勤め、その日常生活を一番身近で直接観察することができた。

金正日は自分の生活ぶりが外に漏れ伝わることを極度に恐れ、中央党の幹部たちまでも警護官と接触できないようにした。だから金正日の生活の内幕については党幹部も国家のエリートたちもよく知らない。この点でこの本は金正日の日常生活をもっとも具体的に明らかにした初めての文献だとみられる。

著者は北朝鮮の悪名高い政治犯収容所生活を体験し、死の境をさまよって艱難辛苦したあげく北朝鮮を脱出するのに成功した。この点で著者は稀なる強い意志を持った闘士だと評価することができる。

彼は自分が見て感じたことを一切誇張を混じえずに真実そのままを記している。この本が金正日と彼の独裁体制を知る上において、おそらく最も貴重な文献であると確信する。

黄長燁（ファンジャンヨプ）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

はじめに

２０００年5月21日、私は大韓民国へ来た。１９９４年10月に初めて北朝鮮脱出を試みてから5年7ヶ月ぶりに夢を遂げたのだ。それから2年が経った。韓国社会に適応するために、まだ少なくはない授業料を支払っているが、それなりに新しい環境に慣れて、小さいながらも健康食品会社を経営しながら将来を見つめだしているところだ。

韓国に初めて来たとき、私は金正日（キムジョンイル）の警護官だったという事実を隠した。北朝鮮にいる私の兄弟や親戚らの安全を考えたからだ。金正日を警護した経歴がある人の中で、北朝鮮から脱出し韓国へ辿り着いた人間は、私が知っている限り今まで私ただ一人なので、自らの経歴を明らかにすれば、北朝鮮ですぐ「李英國（イヨングッ）」という人物が誰であるかが明らかになってしまう。そうなれば、直ちに私の家族に被害を加えるようになるだろう。それも軽い被害ではなく、ときには命まで失うような処罰を受けるだろう。北朝鮮はそんな社会だ。

私が韓国へ来て2年が経ち、南北正常会談も開かれて人々は北朝鮮が随分変わったと言う。しかしその発言を聞くにつけ、まだ本当の北朝鮮を理解してはいないと断言できる。北朝鮮で長い間暮らして来た私たち脱北者としては、根拠の乏しい風説を聞くと憤りを感

じる。

私は北朝鮮で40年近く暮らしたが、金正日の警護官として暮らした11年間は一般社会がどう動いているのか全くわからなかった。警護官には最上の物質的条件を保障してくれるので、社会全体がそのように暮らしていると思うしかなかった。しかし除隊して社会に出ると、まさに悲惨な状態だった。金正日の豪華な生活を目の当たりにしてきた私としては良心の呵責に苛まれ続けた。そして私は韓国を目指したのである。

北朝鮮で生活している一般国民は、北朝鮮社会がどんな社会であるかわからないように遮断され、欺かれる。北朝鮮はそんな国だ。まして韓国で、北朝鮮が宣伝用に作った偽りの資料を用いて北朝鮮像を思い描く人々が未だにいるのも事実だ。

私は、私一人で生きようと韓国へ来たのではない。これからは、北朝鮮が本当はどんな社会なのか人々に知らせなくてはいけないと思った。命懸けで韓国へ来た私の使命であると思った。それが、この本を書いた経緯である。

私は北朝鮮で国民が享受することができる最高の待遇である金正日警護官を経験し、また、北朝鮮で一番獣のような扱いをされる場所、政治犯収容所の囚人として閉じこめられた経験もある。だから北朝鮮社会の陰と陽を他の人々よりもっと正確に幅広く言えると自

負する。

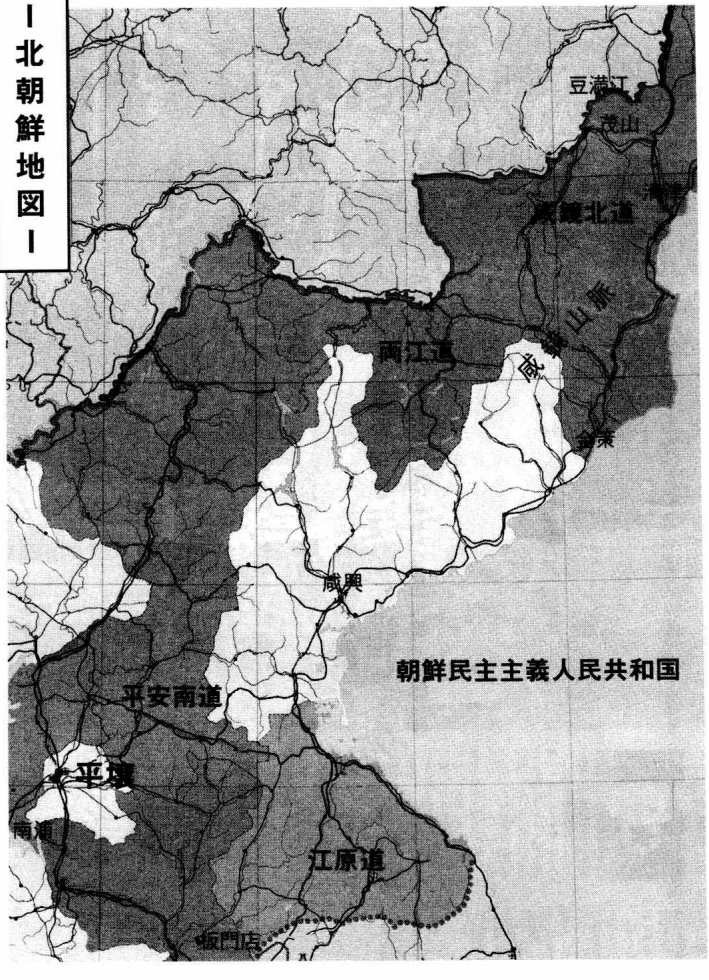
私はその経験をありのままこの本に書いた。もちろん記憶力の限界を感じながらも、最大限私の個人的感情を慎んで事実のみを書いた。下手なパソコンで徹夜をしながらキーボードを打って書き上げた。

私のつたない文脈を整えたり、いろいろと助けてくださったたくさんの方々に感謝しつつ、この本が全世界の人々に北朝鮮の真実の姿を知っていただくために、少しでもお役に立てたらと切に願っている。

最後に北朝鮮にいる家族や知り合いたちが、北朝鮮が民主化されるその日まで、健康な姿でいてくれ、再び会えることを心から切望する。

２００２年10月　著者　李　英國

ー北朝鮮地図ー



――目　次――

推薦文　黄長燁

はじめに

第1部　金正日親衛隊員

第1章　幼年時代の思い出　――15

いたずら好きの一人息子として育つ／もう一度幼い日に帰りたい

第2章　針穴を通るより難しい警護官選抜過程　――21

1977年4月のある日／11親等まで親戚関係を調査／限りなく続く身体検査と談話（面接）／我々の共通点は「自分がどこに行くのかわからない」こと／生まれて初めて聞いた名前「金正日」／朝鮮労働党中央委員会組織指導部幹部5課

第3章　警護官生活　――37

1．新兵訓練　――37

死んでも生きても金正日のために／辛い警護官新兵訓練／極限の過労でマットレスに寝小便

2．警護部隊紹介　――46

第2護衛部は護衛司令官も手をつけることができない部隊／1980年1月22日親衛隊創設／最高の服装と武器を支給

3. 刃の上の日常 ―55
ただ金正日の思想で武装／褒められるために何の罪もない人を殺す／表情が暗いと勤務から除外／結婚相手はくじ引きで
4. 金正日現地視察時の警護方法 ―64
行事汽車は3回出発する／人の帳幕を張る鉄壁の警護
5. 警護官としてこの目で見た金正日 ―69
推し測ることができない性格／金正日の車にあたふたと逃げ出した老幹部たち／タイピスト、交換手女性たちは髪にピンを止められない／警護官に向けられる意外にも篤い思いやり／親衛隊は選挙に参加できない／財政経理部8課と11課の職員たち

第2部 北朝鮮を新たに実感する

第1章 11年ぶりに帰ってきた故郷 ―87
金正日と私／中央党交換手から金正日運転手になったいとこ／10年も経てば江山も変わるというのに！／金正日の人物像を改めて思い知る

第2章 労動党指導員の生活 ―99
茂山郡党民防衛軍の指導員／初めて目撃した幹部たちの腐敗ぶり／中央党民防衛大学の実状

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第3章　脱出、逮捕そして…　—108
中毒になるほど聞いた韓国ラジオ放送／ついに国境を越える！／韓国に行く夢で幸せだった日々／韓国大使館職員金泳浩／何かおかしい／北朝鮮大使館に入った乗用車／体中ギブスをしたまま平壌行きの飛行機に乗せられ

第4章　国家安全保衛部予審局　—128
地獄の入口に立つ／10日間にわたる一人だけの抗争／まずは殴られて開始／一体私は生きられるのか／保衛部予審局ができて以来、お前みたいな奴は初めてだ

第5章　人間の仮面を被った野獣たち　—143
お前の経歴を誰にも言うな／予審局課長金勝哲／率直な心を打ち明ける／人間を獣に作り変えるところ／いとことの出会い

第3部　人間生き地獄「ヨドク政治犯収容所」

第1章　悪魔の巣窟から人間の生き地獄へ　—165
管理所から生きて出られれば英雄だ／逃走するという話だけでも銃殺／北朝鮮の人々もあまり知らない政治犯収容所の存在／外来者30日／素早く適応してこそ生きる道が開かれる／味の素一袋と交換した鶏一羽／一筋の希望でも掴んで

第2章　収容所での生活　—183
政治犯収容所は階級的怨讐をより分ける審判場／韓国の実状を知りたがる保衛員／恥ずかしさなどとっくの昔に忘れた／「私だけ生き抜く」方法を身に付ける／罠に掛かる／ネズミは最高の栄養食（保身食）／人体実験室に引きずり込まれた小隊長

第3章　虫ほどの価値もない囚人の命　—204
死を待つ人々／牛を掴んで食う人／人に食わせる食糧はなくても家畜に与える飼料はある／暇つぶしで人を殺す悪魔たち／逃走分子の最期／鎖で足を縛ってトラックで引きずりまわす／男女とも服を脱がせてこん棒で……

第4章　奇跡的に生きて帰る　—223
最高司令官金正日将軍様の配慮／やっと生き逃れた／さらに廃墟と化した祖国／最終目標に向けて／妻の涙／有り難い友／また監視対象／ああ大韓民国！

追記　知ってるつもり!?金正日

金正日が使用する主要施設　—244
金正日執務室／試写室／金正日の官邸16テギ／21地区ヨンソン（55課）／72号別荘／フンナン37号別荘／ヒャンサン1別荘／ヨンプン別荘／ダルチョン別荘／シンチョン別荘／チャンソン別荘／ジョンバンサン別荘

金正日の家系図 ―248
金正日の特性 ―248
一応何でもしでかす性格／旺盛な体力／テロ方面では頭の回転が速い
金正日の人間関係 ―250
わき枝は徹底的に牽制／血も涙もない人
金正日の政治スタイル ―252
私の命令通りにすれば勝利する／人民たちが死んで行く時金正日は／恐ろしくて人民の前に立つこともできないくせに／赤化統一の野心は絶対捨てない／金正日の小切手（自筆サイン）独断行動／ズボンを履いたからと追放された受付の娘／恐ろしくて飛行機も乗らない

カバーデザイン　渡邊正（トラック）

第1部　金正日親衛隊員

第1章　幼年時代の思い出

いたずら好きの一人息子として育つ

私が生まれた故郷は咸鏡北道（ハムギョンブクト）の茂山（ムサン）である。昔から鉄鉱石がたくさん産出されることで有名なところだ。日帝時代に帝国主義者たちが建設した茂山鉱山は、多く朝鮮半島の人々の命を奪って大陸侵略の兵站基地にした、悲しい歴史が刻まれた場所でもある。

私は一男四女の一人息子として、1962年5月16日に生まれた。父は茂山鉱山で働き、母は農場で働いていた。一家の収入は少なく、家族七人がようやく日々の食事をすることができる程度だったが、両親は一人息子である私にだけは貧しい思いをさせまいと、真心をつくしてくれた。両親の愛を一身に受け、ちやほやと育てられた私は、時々わがままを言っては両親を困らせた。「これ買って、あれ買ってくれ」と言っては、多くの物をねだったのだ。決して裕福といえない生活の中で、目に映るあらゆる物を買ってくれと言って泣き出す息子を見る両親の心は、どんなにもどかしくて切なかっただろう。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com